



和漢の故事人物と自然表象

——16、7世紀の日本を中心に

【開催主旨】

16、7世紀の日本は、和歌漢詩、物語草子、説話・唱導、また注釈世界の広がりとともに、絵画化の動きとも連動しながら「自然」にまつわる多様なモチーフが視覚的イメージを獲得し、主題化し、さらにメディア間を横断しながら、世界観を転換させていった過渡期であった。本ワークショップでは、この時期とくに隆盛をみる「自然表象」、またそこに付随あるいは並列して表象されてきた「人物故事」に着目し、それらが〈和／漢〉のことは、イメージ、文化領域を交叉させながら、中世から近世へいかに展開・変容していったか、そのプロセスを文学—美術—芸能にまたがる領域から光をあててみたい。その中で、そうした「自然」と「人間」にまつわる表現が根差す「自然観」を動態的に捉えることを目指したい。

開催日：2018年12月23日（日）～12月24日（月）

会場：東京大学東洋文化研究所大会議室

〒113-8654 文京区本郷7-3-1（本郷キャンパス）

キャンパスマップ → https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01/_12_02_j.html

主催

「室町期における「故事人物」と「自然」表象——和漢のことはと絵の交叉」（代表者：宇野瑞木 科学研究費・若手研究）

「前近代日本の造形文化における古典知の構築」（代表者：佐野みどり 学習院大学人文科学研究所・共同研究プロジェクト）

12月23日(日) 10時45分～ (受付 10時15分～)

主旨説明 宇野瑞木(日本学術振興会・特別研究員RPD・東京大学)

基調講演 島尾新(学習院大学・教授):「内在化」のかたち:「漢」の自然表象と故事人物

パネル1:〈漢〉の故事人物と自然表象の世界 13時～15時

宇野瑞木(日本学術振興会・特別研究員RPD):二十四孝図と四季表象
—大舜図の「春耕」の意味を中心に

入口敦志(国文学研究資料館教授・教授):日光東照宮の人物彫刻と中国故事

齋藤真麻理(国文学研究資料館・教授):故事を遊ぶ—戯画図巻の時空—

コメンテーター:塚本鷹充(東京大学東洋文化研究所・准教授)

司会:亀田和子(ハワイ大学ウエストオアフ校・講師)

パネル2:人ならざるものとの交感 15時30分～17時5分

高橋悠介(慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・准教授):金春禅竹と自然表象

伊藤慎吾(国際日本文化研究センター・客員教員):

お伽草子擬人物における異類と人間との関係性

—相互不干渉の不文律をめぐって

コメンテーター:黒田智(金沢大学・教授)

司会:山田悠介(大東文化大学・講師)

レセプション・懇談会 17時15分～

12月24日(月) 10時～ (受付 9時30分～)

基調講演1 徳田和夫(学習院女子大学・教授):^{へんげ}変化と変身—自然と人間—

基調講演2 佐野みどり(学習院大学・教授):中近世絵画に見る音の風景

パネル3:〈和〉の故事人物と自然表象の世界 13時～15時

永井久美子(東京大学・准教授):『源氏物語』幻巻の四季と浦島伝説)

井戸美里(京都工芸繊維大学・専任講師):

再生される名所絵—障屏画に投影される和歌

糸汐里(国文学研究資料館・特任助教):

語り物の風景描写をめぐって—道行文の絵画化

コメンテーター:山本聡美(共立女子大学・教授)

司会:亀田和子(ハワイ大学ウエストオアフ校・講師)

パネル4:〈漢〉の風景の創出と継承 15時25分～17時

野田麻美(静岡県立美術館・上席学芸員):

江戸狩野派による雪舟様式の展開について

—江戸狩野派の倣古図における雪舟図様の変遷をめぐる諸問題

亀田和子(ハワイ大学ウエストオアフ校・講師):

蘭亭曲水宴図の和様化—中国の画題が和の場に属する例として

コメンテーター:堀川貴司(慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・教授)

司会:宇野瑞木(日本学術振興会・特別研究員RPD)

全体討議 17時15分～17時45分

※席数に限りがありますので、ご出席の方は下記アドレスまでご連絡ください。

宇野 瑞木 mizukitera@yahoo.co.jp